

MoboMoga

—新・銀ブラプロジェクト—

＜あき男＞
都心部に勤務し、東京近郊に住む20代サラリーマン。関西に住んでいる彼女の「よし子」との結婚を考えており、明日は久しぶりによし子が上京てくる。



焼け焦げるような日差しが肌とアスファルトを溶かすようだ。
都心だというのに、これでもかと言うように蝉が鳴いている。
「次の得意先へは、銀座駅で乗り換えだったな。少し休むか。」
訪問までは少し時間がある、夏の暑い日差しでバテたあき男は最近新しくなった銀座駅コンコースのベンチで休憩をとることにした。
「もう金曜日か、、、しまった！最近仕事に忙殺されていたせいで、結局プロポーズの決心どころかデートの行き先も、食事の店すら決まっていない。明日の昼過ぎにはよし子が来るって言うのに。。。」
そんなとき、あき男の目にふとコンコース内を流れる文字が目に入った。
「RT@Fujii.K 昨日行った○○Café のプレートランチ、すごいおすすめ！ 露団気もいいからカップルにもいいかも。ああ俺も早く彼女欲しい。。。orz」
そう言えば、ここは通るたびに何か文字が流れてるな。確かにこれって、誰かがネットでつぶやいた、銀座のキーワードに引っかかる店やブランド、アートやイベントの情報が流れてるんだよな。
「よく見ると、いろんな細かいみんなの情報が流れてるな。あれ？ そんな路地に花屋さんなんてあるんだ。あ、あのブランド店セール中なのか、欲しい靴があったな。そうそう、確かにマロニエ通りにあった店のアクセサリーかわいいよな。」
「あれ、この店って確かよし子に告白した時のレストランじゃ。。。。。」

「よし、明日は銀座を歩こう。花を買って、レストランを予約して。。。あと、最後の言葉は自分で考えないとな。」
乗り換えのホームの天井に流れる文字を横目に、あき男は電車に乗り込んだ。
「明日は快晴です。すっきりした青空が広がり、絶好の銀ブラ日和となります。

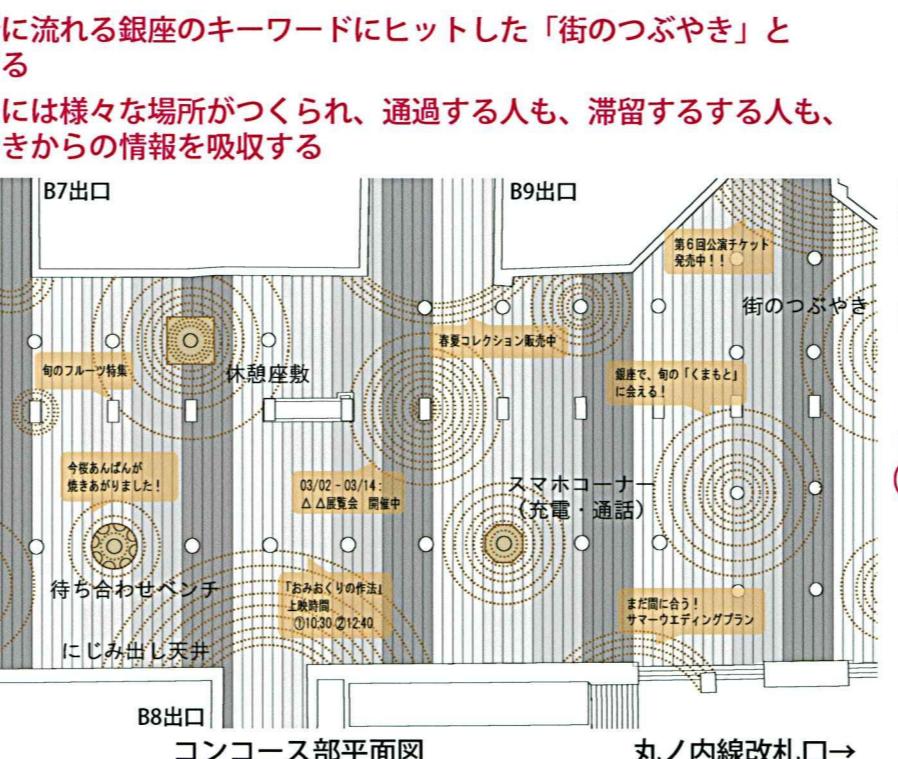
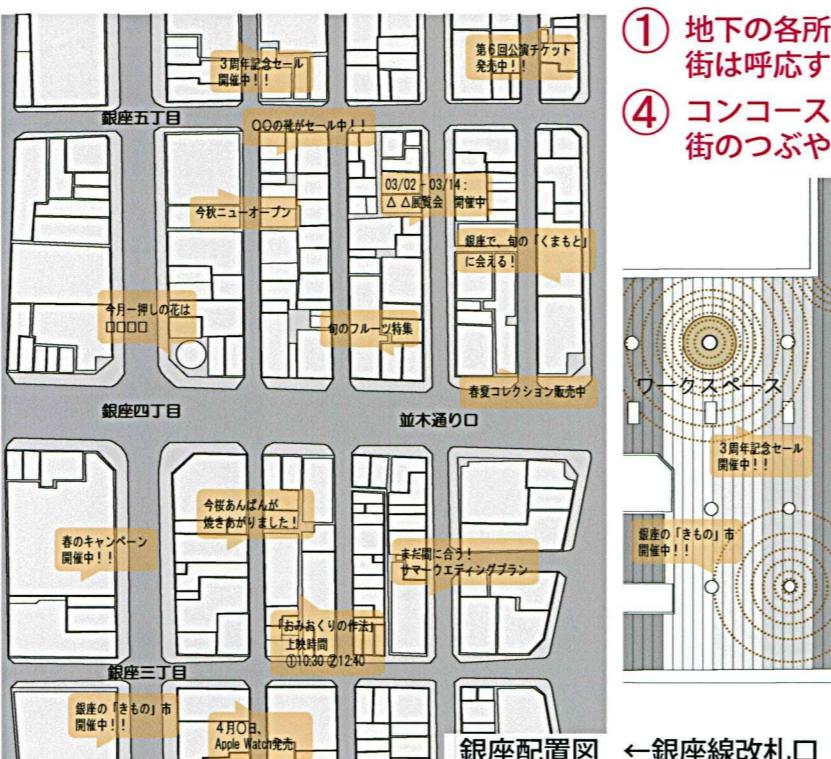
concept

MOBOMOGA の前線基地としての「銀座駅」

「銀ブラ」という言葉が生まれたのはもう100年も前のこと。モダンボーイ・モダンガール(MoboMoga)の嗜みとしての銀ブラは、街を歩くこと自体を楽しむものであったに違いない。現在、最先端のモノ・ヒトが集まる銀座だが、メインストリートのブランドショップや百貨店だけではなく、実は裏通りの店やビルの中で行われる展示やイベント、映画や演劇、カルチャー教室など、知っていないとわからない様々な魅力も併せ持つ街である。

「銀座駅」を銀座の街にあふれる情報を吸収することのできる「前線基地」とすることで、地下と地上は一体となり、目的無く訪れてもいつも街自体を楽しむことのできる、現代版の「銀ブラ」を再構築する。

- ① コンコースに新たな「滞流と通過の場」を計画
 - ② 駅を一新する、銀座の街や駅の情報と一体化した流れるデザイン
 - ③ タイムリーに次々と現れる「街のつぶやき」
 - ④ 通過する人も、留まる人も、地下にいながら地上の情報を断片的に吸収する
 - ⑤ 情報により地下と地上はつながり、王ボ・王ガ達は「銀プラ」へと繰り出す



③ ホーム階では、電車の情報と共に銀座周辺の気温や天気の情報が流れ
降車した直後から銀座の街の状態を感じる事ができる